



《ジェネラリスト BOOKS》
病歴と身体所見の診断学
検査なしでここまでわかる
徳田 安春 著

●A5 頁210 2017年11月
定価：本体 3,600 円＋税
[ISBN978-4-260-03245-2]医学書院刊

診断に、難渋するときがある。

患者は苦しんでいるものの、検査に目立った異常が出ない急性腹痛などは、鑑別が想起されたとしても面倒を伴う。他覚的な所見に乏しい不定愁訴に診断を付けようと試みる際も、疑わなければ糸口にすら辿り着けない。ここには、ある種の技が求められる。臨床にかかわる者は、誰もこうした際の対処法を身につけていよう。しかし、個人的な経験と勘に頼っている限り、まさにその経験により作られたバイアスの罠にからめとられてしまう。

この問題に、医学は、「診断特性の疫学」で応えようとしてきた。とある所見が得られている際、自分の疑う疾患の可能性はどれだけ高まるのか。複数の鑑別疾患の間で、より確からしいのはいずれか。診断に際し、われわれは無意識にこうした「確からしさの概算」を行っているという。EBM はそれを体系化し、経験と勘の本質を定量的に明らかにしてきた。しかし、こうした方法論を誠実に適用し診断精度の向上につなげていくのは容易でない。トップランナーは、メジャーなジャーナルの症例を絶えず追い、2 万本もの論文をノートしているという。これは、常人ができる努力の域を大きく超える。

本書は、わが国におけるそうした試みを牽引してきた著者が見いだした方法論のエッセンスといえる。導入として、診断確率の基本を復習したうえで、身体所見が診断確率にいかに関与するのか、付録となってい

るノモグラム (Fagan's nomogram) というツールを用いて繰り返し実演する。こうして、主要な所見の特性を理解し使いこなすために厳選された 19 の実例が収められている。本書は、筆者が述べるように、研修医からベテランまで、あらゆる医師に読まれることを想定している。その“野望”に向けて、初学者向けの演習だけでなく、この方法論が確立してきた背景と、さらに掘り下げていくための道標が合わせて示されている。

実は、出版社より本書の書評を依頼された後、あれこれとお断りの文面を考えていた。著者とは、私が続けてきた医療用人工知能研究を通じて知遇を得た。そして、先日、著者本人より改めて書評を求められたことで、いよいよ観念して本書を開いた。そしてすぐ、本書を手にする機会を得た幸運に感謝した。つまるところ、“生身の臨床医が到達し得た頂点がここにあり、自分達の言語化し得るノウハウは全て開示する。人工知能により医師を支援するなどという不遜な態度をとるならば、せめてこの水準は越えてみせろ”という挑戦と受け取った。この書評をお受けしなければ、高名な臨床家からの挑戦に隠されたエールと、本書に含まれるいくつかの重要な研究上のヒントに気付けなかったに違いない。

良書との出会いには運がかかわる。他の読者が、形は違えども私と同じ幸運を感じていただけることを願っている。